

雨 後

男声合唱組曲「追憶の窓」から

作詩：三好達治

作曲：多田武彦

一つ また一つ 雲は山を離れ 夕暮れの空に浮かぶ
 一つ また一つ 雲は山を離れ 夕暮れの空に浮かぶ
 雨の後 山は新緑の襟を正し 膝を交へて並んでゐる
 峡の奥 杉の林に 発電所の燈がともる
 さうして後ろを顧みれば 雲の切れ目に 鹿島槍
 一つ また一つ 雲は山を離れ 夕暮れの空に浮かぶ

この詩は、旅館の窓から見た風景だそうで、そこでこの組曲名の「追憶の窓」に繋がっているのかもしれませんが。「かいのおく すぎのはやしに」と歌う部分がありますが、「かい」とは「峡」の事で、「きょう」は音読み、「かい」が訓読みになる事を今回初めて知りました。

続いて「発電所の燈がともる」と歌いますが、この発電所はどこ発電所でしょうか？

「雲の切れ目に鹿島槍」とも歌いますので、鹿島槍ヶ岳が見える位置の発電所ということになります。

鹿島槍ヶ岳は富山県と長野県の県境にあるそうなので、見えるかどうかは別として比較的近くには富山県の黒部川第四発電所（1963年完成）や、長野県の新高瀬川発電所（1979年運用開始）等があるようです。

しかし、三好氏が詩を詠んだ昭和10年（1935年）頃は、まだどちらの発電所もなかった時代ですし、時代的にこの「発電所」は、もっと小型の施設だったかもしれません。

III. 雨 後

三好達治 作詩
 多田武彦 作曲

中庸の速度ですがすがしく（♩=約76）

mf

Ten. I
 II

Bass I
 II

ひとつ またひとつ くも は やまをはな れ

mf

mp

ゆうぐれのそらに そらに うかぶ

mp

f

ひとつ またひとつ くもは やまをはなれ

f

mp

ゆうぐれのそらに そらに うかぶ

mp

mp

m

mp

mf

あめのあと やまは しんりよくの えりを ただし

m

mf

mp

m

ひざを まじえて なら nder いる

mf

mp

mf

かいのおく

はつでんしょうのひがともる
 すぎのはやしに

ものきれめに
 そうしてうしろをかえりみれば

かしまや
 ひとつまた

ひとつくもはやまをはなれ

ゆうぐれのそらに
 そらにうかぶ